

年 頭 所 感

北陸の経済に弾みがつく年に

日本銀行金沢支店 支店長 大川 真一郎



2025年の年頭にあたり、ご挨拶を申し上げます。

振り返りますと、2024年の北陸経済は、1月の能登半島地震と9月の奥能登豪雨の影響を大きく受けました。改めて、お亡くなりになられた方のご冥福を祈るとともに、被害を受けられた方々の生活や生業が1日も早く回復することを願っています。

能登半島地震と奥能登豪雨により、道路や港湾等のインフラが棄損したほか、和倉温泉街では、多くの宿泊施設が営業停止となりました。また、農林漁業や輪島塗に代表される工芸関係でも、大きな被害を受けました。この間、小売業などで個人事業主が、廃業を選択ないし事業の再開を躊躇するケースも多く、能登地域からの人口流出も例年の2倍以上のスピードで進みました。

能登地域以外の経済活動を振り返ると、昨年は、3月の北陸新幹線敦賀延伸の効果と、世界的に回復した観光需要の高まりを享受した1年と言えるでしょう。新幹線延伸の効果は特に福井県で強くみられ、停車駅周辺の商店街で新店舗開設の動きが目立ったほか、関東や関西方面からの観光施設への入込客数が大幅に増加しました。また、インバウンド効果は特に石川県で強くみられ、外国人の延べ宿泊客数は、前年比2桁増で推移しました。加えて、JRの大型観光企画「北陸デスティネーションキャンペーン」の効果もあって、足元、富山県への入込客も増えています。これらは、北陸の個人消費の伸びに寄与しています。

一方、生産活動は、能登半島地震の影響などを受け、一時的に落ち込みました。その後、夏場頃には概ね元の生産体制にまで戻りましたが、海外経済の伸び悩み等を映じて横ばい圏内の動きにとどまっています。内容をみると、電子部品の製造は持ち直しているほか、医薬品(化学)の製造も、ジェネリック薬品の需要の高まりを映じて順調に推移していますが、生産用機械の生産は、中国や欧州の景気鈍化や、米国経済の先行き不透明感の高まりなどを受けて、減少しています。

さて、本年の北陸経済を展望しますと、全体としては、緩やかに回復していくのではないかとみえています。まず、能登地域における関係者の懸命な努力が実り、生活再建や経済の復旧・復興が進展することが期待されます。また、能登地域以外の経済活動についても、北陸新幹線敦賀延伸の効果と、インバウンド効果が続くのではないかとみえています。現時点では弾みのつかない製造業も、世界的なIT在庫の底入れ等を映じて、徐々に生産が増加していく局面に来ていると認識しています。

もちろん、リスクは色々とあります。物価高に見合う賃金の上昇が続くのか、原材料費の上昇を含めた資材不足や人手不足に伴う供給制約が緩和されるのか、欧州や中国の経済が回復し、輸出関連企業の受注が伸びるのか、トランプ政権のもとで米国の経済スタンスがどう変化するのか、などです。

こうした状況に対し、北陸経済が、そのポテンシャルをいかに発揮し、しなやかに対応していくことを期待しています。本年が皆様にとって実り多き年になることを祈念しております。